

第21回「チーム新・湯治」セミナー

国民保養温泉地における 『新・湯治』の実践に向けて

【趣旨】

国民保養温泉地は、温泉法に基づいて国民の保健休養に重要な役割を果たす温泉地を環境大臣が指定するもので、現在79カ所が指定されています。国民保養温泉地は、自然環境、まちなみ、歴史、文化等の観点から保養地として適していることから、「新・湯治」の実践の場として中核的な役割を果たすことが期待されています。一方で、その趣旨や魅力が十分に国民に知られておらず、その機能が十分に発揮されていないといった課題があります。今回のセミナーでは、近年のインバウンドの増加や、「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録への動きも踏まえ、国民保養温泉地における「新・湯治」の実践の状況や課題、今後の方向性を整理し、国民保養温泉地の活性化に向けたヒントを探っていきます。

【プログラム】

- 14:00～ 1. 開会
- 14:10～ 2. チーム員からの活動報告（3件）
（登別市地域おこし協力隊、NPO法人わくわくプラザ、株式会社ロッテ）
- 14:30～ 3. 【講演】国民保養温泉地の現状と課題
杏林大学外国語学部観光交流文化学科 教授 小堀貴亮氏
- 14:50～ 4. 【事例発表1】オンリーワンの滞在型保養温泉地を目指して（大分県・湯布院温泉）
一般社団法人由布市まちづくり観光局 事務局長 生野敬嗣氏
- 15:10～ 【事例発表2】酸ヶ湯温泉における湯治文化継承について
酸ヶ湯温泉株式会社営業企画室 係長 高田新太郎氏
- 15:30～ 休憩
- 15:35～ 5. 講演者によるパネルディスカッション
- 16:20～ 6. 質疑応答
- 16:35 7. 閉会

【配布資料】

- 1. プログラム ※本資料
- 2. 第21回「チーム新・湯治」セミナー参加者一覧
- 3. チーム員からの活動報告資料（2件）※「株式会社ロッテ」については、投影のみ
- 4. 講演資料（2件）※「【講演】国民保養温泉地の現状と課題」については、投影のみ
- 5. アンケート用紙
- 6. チーム員一覧（令和8年1月5日現在）

講師プロフィール

小堀貴亮（こぼりたかあき）氏 [杏林大学外国語学部観光交流文化学科 教授]

2000年 千葉大学大学院修了
 2000年 別府大学短期大学部地域総合科学科観光系専任講師
 2010年 大阪観光大学観光学部観光学科専任講師
 2012年 共栄大学国際経営学部国際経営学科観光ビジネスコース専任講師
 2017年 川村学園女子大学生生活創造学部観光文化学科准教授
 2020年 杏林大学外国語学部観光交流文化学科教授・同大学院国際協力研究科教授（現職）
 その他、玉川大学・昭和女子大学・駒沢女子大学にて兼任講師
 外部委員など
 環境省国民保養温泉地専門家委員、一般社団法人日本温泉協会学術部委員、公益財団法人中央温泉研究所理事、
 温泉文化の世界無形文化遺産登録に向けた検討会専門委員、日本温泉地域学会常務理事など

生野敬嗣（しょうのけいじ）氏 [一般社団法人由布市まちづくり観光局 事務局長]

1969年 大分県由布市出身
 2004年 由布院観光総合事務所入所
 2009年 一般社団法人由布院温泉観光協会（上記事務所の法人化）
 2016年 一般社団法人由布市まちづくり観光局入社
 2026年 現職
 由布院観光総合事務所・事務局員の全国公募への応募をきっかけにIターン。同事務所で初めて観光産業に携わる。
 その後、事務所の法人化、同協会事務局長を経て、由布市全域を管轄する観光地域づくり法人の設立に関わり、現在に至る。

高田新太郎（たかだしんたろう）氏 [酸ヶ湯温泉株式会社営業企画室 係長]

1989年 青森県津軽地方出身
 2015年 弘前大学理工学部物理科学科 卒業
 酸ヶ湯温泉株式会社 入社
 2021年 弘前大学大学院修士課程 入学
 2025年 弘前大学大学院修士課程 修了
 弘前大学大学院博士課程 入学
 弘前八幡宮 権禰宜（神職）
 酸ヶ湯温泉入社後、温泉だけではなく雪を利用した“ここならではの”企画立案をし実施している。コロナ禍には、視覚中心の観光に疑問を感じ、大学院修士課程に通り“サウンドスケープ（音風景）”を基盤とした経験について研究し、現在博士課程にて研究中。また、神職として弘前八幡宮（青森県）で奉仕をしている。大学時代に習得した中国語と韓国語を活かし、インバウンド対応も行い、様々な角度から日本・温泉文化を伝えている。